方　法

- 対象・時期・仮説
- 尺度について

対象・時期・仮説

- 対象：北部九州の公立全日制普通科高校
  2年生　347名
- 時期：2023年　8月　（アンケート）
- 仮説：

卒業後の学びや職業に関する目標が明確である生徒の方が、自己理解力や職業理解力が高いであろう

尺度について

- 職業理解力
  「キャリアデザイン力尺度」（三川・石田・神田・山口，2017）の、
  下位尺度「職業理解力」（6項目）

1 いろいろな職業について知っている
2 いろいろな職業について、それぞれどのような進路をとれば、その職業につけるか知っている
3 いろいろな職業について、それぞれにどのような能力や知識が必要か知っている
4 いろいろな職業が、それぞれ社会でどのように役立っているか知っている
5 将来、自分の役に立つ資格について知っている
6 職業を選ぶとき、重視したいことが分かっている

尺度作成について

- ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム（西山，2014）のうち、

【コンセプト区分：キャリア発達、個人と社会性の発達】

キャリア・プランニング　　自己理解

15項目

個人から国際社会までの範囲にわたる発達課題　⇒　10学年（16歳相当）

尺度作成について

- ミズーリ州のガイダンスカリキュラムの学年別発達課題

ミズーリ州包括的ガイダンス＆カウンセリングプログラム（抜粋：高校編）

コンセプト区分：個人と社会性の発達（PS）　―　学年基準（GLS）9～12 学年

知識の深さ(Depth Of Knowledge)
レベル 1：記憶
レベル 2：スキル／概念
レベル 3：戦略的思考
レベル 4：拡張的思考

分類 1：GLS1　個人としての自己と、多様な地域および グローバル社会の一員としての自己の理解

分類	GLS-9（中学３年生）	GLS-10（高校１年生）	GLS-11（高校２年生）	GLS-12（高校３年生）
A. 自己概念	a. よい自己概念を確保するために必要なスキルを発展させる。 DOK：レベル2	a. よい自己概念を示し、維持するために必要なスキルを実行する。 DOK：レベル3	a. 良い自己概念を示し、維持するために必要なスキルを実践し、修正する。 DOK：レベル3	a. 人生を通して良い自己概念を示し、維持するために必要なスキルを使用する。 DOK：レベル4
B. 人生における役割のバランスをとる	a. 家庭・学校・地域コミュニティで生徒が負う増加する役割と責任を理解する。 DOK：レベル2	a.家庭・学校・仕事と地域コミュニティのバランスをとるよう、役割や責任に優先順位をつけ、実践的に方法を行動で示す。 DOK：レベル3	a. 家庭・学校・仕事・地域コミュニティの役割のバランスを取るのに役立つ資源を見極め、実行する。 DOK：レベル3	a. 個人・家族・学校・コミュニティ・仕事の役割のバランスをとるための能力を示す。 DOK：レベル4
C. 多様な国際社会に貢献する一員となる	a. 学校社会に貢献する一員となるため、生徒個人が参加できるであろう活動を見極める。 DOK：レベル2	a. 一人の生徒が国際社会に貢献できる一員となることに役立つ活動を見極め、参加する。 DOK：レベル4	a. 生徒個人が国際社会に貢献できる一員となるのに役立つ活動や経験を積む。 DOK：レベル3	a. 広く国際コミュニティに貢献する一員としての性質を示す。 DOK：レベル4

⇒定量的評価ができる行動レベルの質問項目へ改変

自分のよさや強みを生かせる場面を見出し、行動に生かすことができる
家庭・学校・仕事と地域社会の役割や責任に優先順位をつけてバランスよく務めることができる
文化や考えの異なる人とも関わり、自分にできる活動を見つけて参加できる

結果と考察

- 尺度検討の因子分析
- 仮説の検証
- 集団の傾向
- 今後の実践上・研究上の課題

尺度検討の因子分析

「キャリア発達」（6項目）⇒　**キャリア・プランニング能力**

探索的因子分析（最尤法、プロマックス回転）→2因子

第1因子　情報の利活用（α＝.894）

進路検討への情報活用

第2因子　学校生活における役割・能力の理解（α＝.763）

学校生活を充実させる役割と能力の理解

※　因子間相関は　.746

尺度検討の因子分析

「個人と社会性の発達」（9項目）⇒　**自己理解能力**

探索的因子分析（最尤法、プロマックス回転）→2因子

第1因子　社会人としての自分の行動（α＝.891）

自身の向社会行動

第2因子　自身を社会に活かすための適切な行動の選択（α＝.846）

自身の行動選択

仮説検証へ

※　因子間相関は　.768